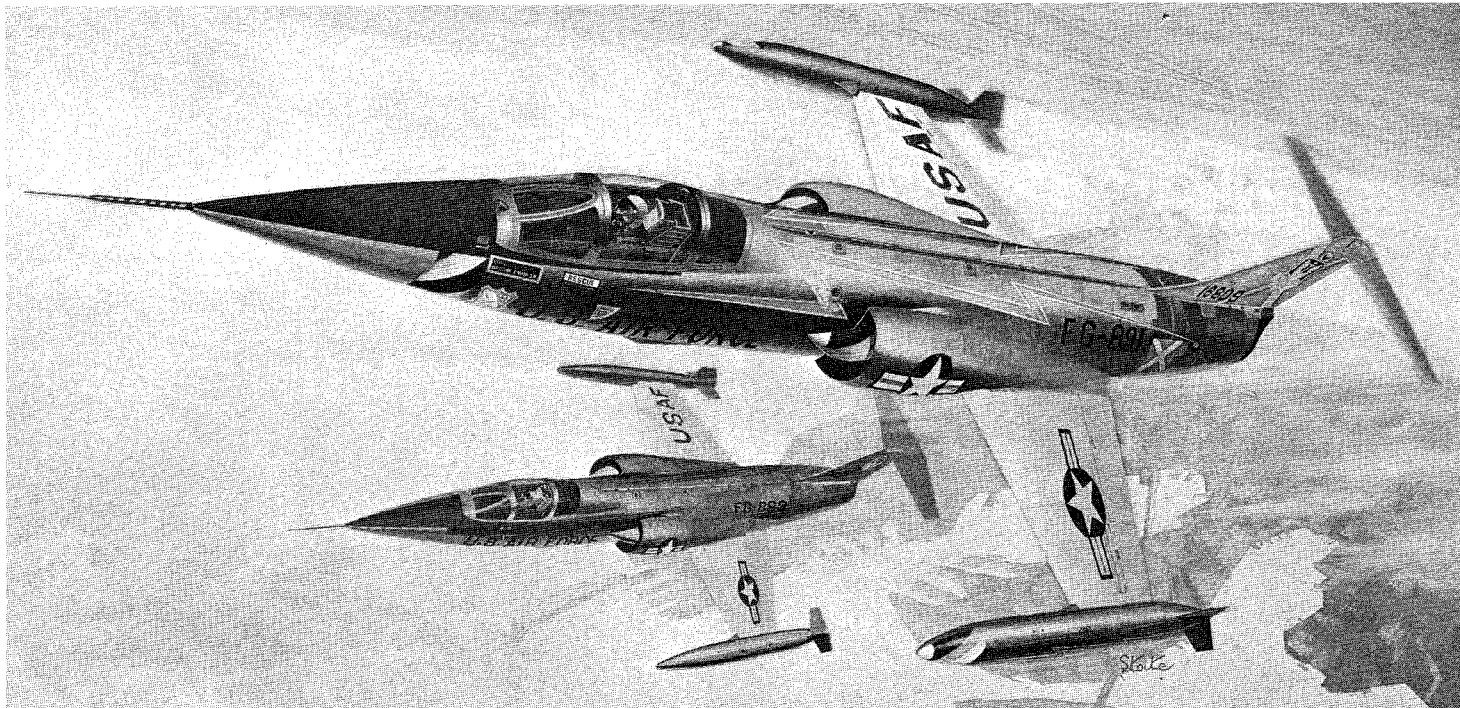


F-104C STARFIGHTER

1/32 Scale Series アメリカ空軍戦闘機 ロッキードF-104C

Hasegawa
ハセガワ

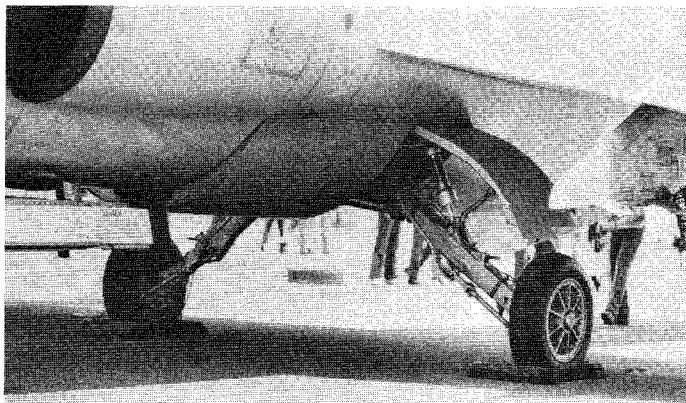


《ロッキードF-104Cスターファイター戦闘機について》

世界最初のマッハ2級戦闘機であるF-104の設計は、1952年からロッキード83の名で開始され、原型のXF-104は1954年2月7日に初飛行しました。

しかし当時のXF-104のエンジンは、ライトXJ65-W-6推力4,536kgで、空気取入口にはマッハコーンもなく、最大速度はマッハ1.79止りとなりました。

次のYF-104Aは動力がJ79-GE-3推力6,713kgに強化され、空気取入口にマッハコーンがついて、1955年4月27日、マッハ2を記録し、その頃ロッキード社では、F-104を「人間が乗る最後の戦闘機」と宣伝し、また一般の論評では「ミサイルに人間を乗せた最初の戦闘機」ともいわれました。✓



F-104は、ペーパーナイフのように薄い特殊な断面の翼を使い、空気抵抗をできるだけ削減して、スピードを出すことに努力が注ぎ込まれた結果、ミサイルの翼のように直線テーパの平面形となり、しかも下反角をあたえるという画期的な試みが実行されました。これに対応して、安定性を保つために水平尾翼の位置を高くし、T字型の尾翼を採用しました。ほかの飛行機ではあまり類を見ない翼配置です。

はじめの生産型は、1956年2月に初飛行したF-104Aで、153機がアメリカ空軍に引渡されました。しかしこの初期型は予想以上に事故が発生して、いろいろな改修を加えることになりました。

この改修をした型がF-104Cで、エンジンはJ79-GE-7推力7,170kgとなり、離着陸を安全にするために吹出しフラップとし、飛行時間を長くするために空中受油装置をとりつけました。また、空中戦のほか地上爆撃にも使うために爆撃照準算定装置をそなえ、主翼の下に1,000ポンド(454kg)爆弾×2をとりつけるようにしました。

このF-104Cは、1958年10月から引渡しが行なわれ、結局77機を生産、シリアル・ナンバーは56-0883/0938および57-0910/0930です。なお、参考のために初期のF-104各型のナンバーを示すと、XF-104は53-7786/7787の2機、YF-104Aは55-2955/2971の15機、F-104Aは56-0730/0882の153機、F-104Bは56-3719/3724および57-1294/1313の26機、F-104Dは57-1314/1334の21機です。F-104Cは就役当時はアメリカ戦術空軍第831師団に所属シジョージ空軍基地に配置されてよく知られました。

防空部隊に配置されたF-104Aは1958年5月7日に高度27,811mを記録、また同月16日には2,259.538km/hの速度記録を出して、ともにFAI公認の世界記録となりました。

そのあと約15年間にF-104の一族は、約20種類もの改造型が計画され、そのうちの数機種がつくられて生産が続き、実際に各国空軍が第一線機として使った型には、F-104A、C、G、J、Sの各型があります。

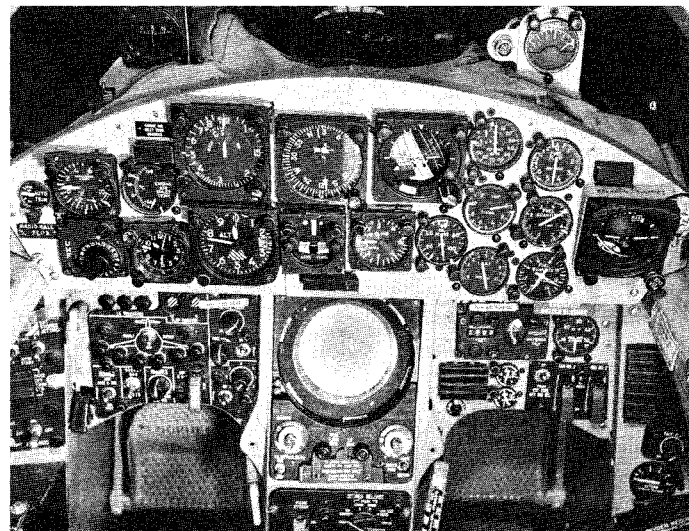
アメリカ空軍ではA、C型を、西ドイツ、オランダ、ベルギー、ノルウェー、デンマーク、ギリシャ、スペイン、トルコ、台湾ではそれぞれG型を、またイタリアではG型とS型、カナダではG型を基準としたCF-104を主として採用しました。

日本ではG型を基準として全天候迎撃用に装備を改めて、三菱重工が中心になってライセンス生産したF-104Jを、輸入機を含めて210機を使用しました。

以上のほか、2人乗りの練習機にF-104B、D、F、TF-104Gがあり、日本ではF-104DJを20機輸入しました。

F-104Cは、全幅6.68m、全長16.69m、翼面積16.63m²、全備重量10,700kg、エンジン、J79-GE-7推力7,170kg、最大速度マッハ2.2(高度12,200m)、実用上昇限度16,800m、航続距離1,610km、20mmバルカン機関砲×1、空対空ミサイル×2~4または454kg爆弾×2、乗員1名。

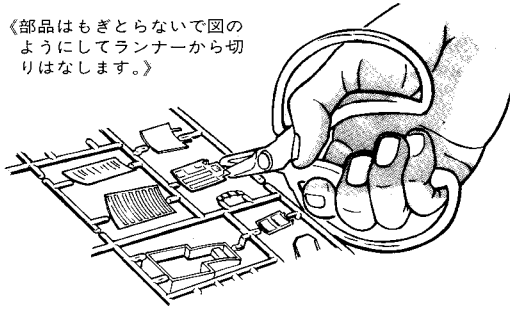
解説：野沢 正



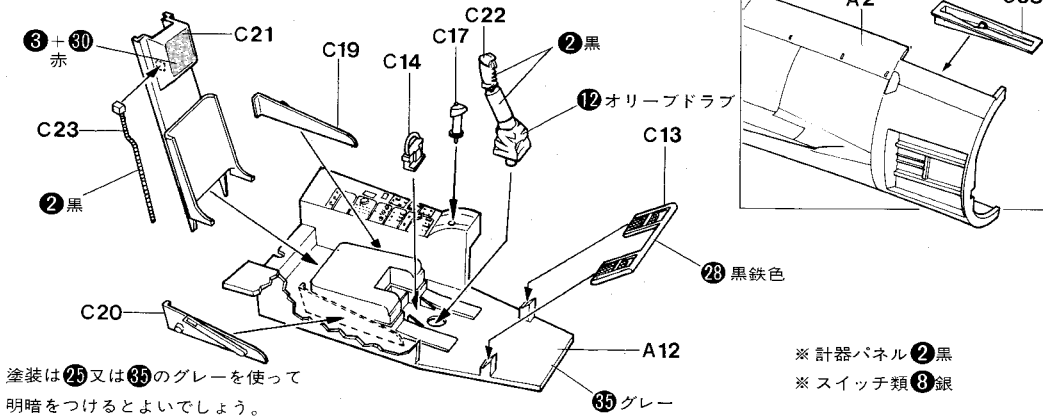
《くみだてるまえに》

- 説明書を一度全部読んでから、指示に従って製作してください。
- 部品をランナーから切りはなす時はニッパー又はカッターを使ってください。
- 接着剤は、組み立てる部品の両方に少しずつ塗って接着して下さい。

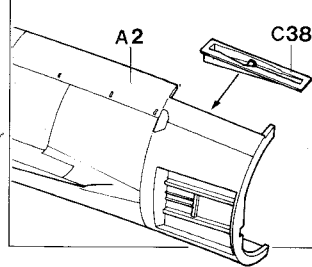
《部品はもぎとらないで図のようにしてランナーから切りはなします。》



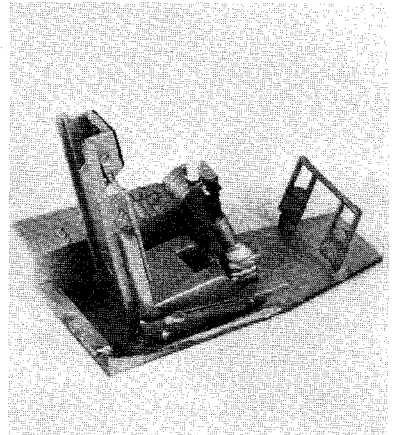
1 コックピットのくみだて



アレスターフック収納庫のとりつけ

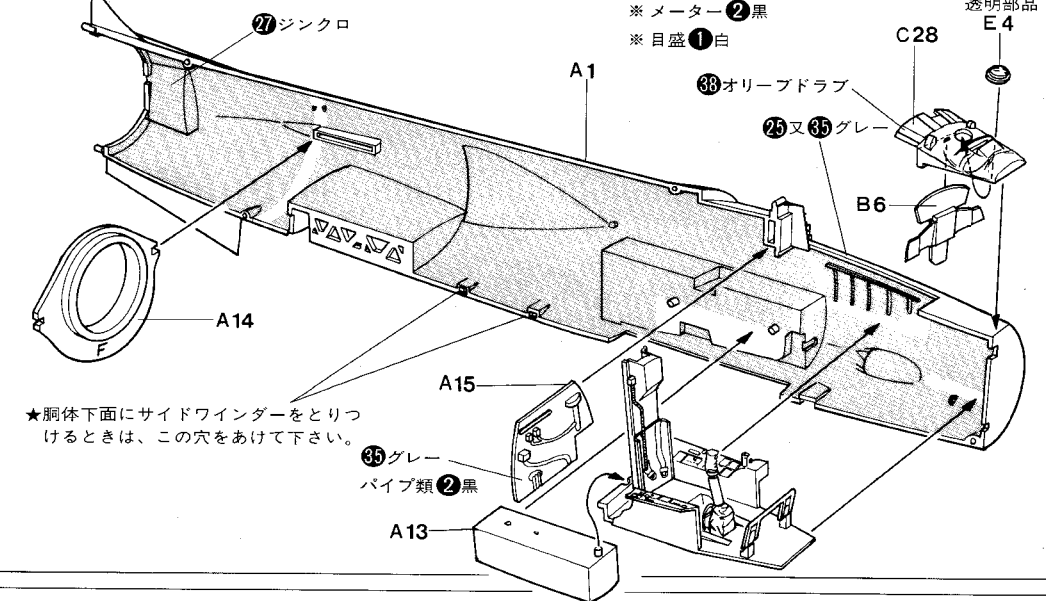


部品を取り出した空袋は幼児が被ったりしないように破り捨てて下さい。

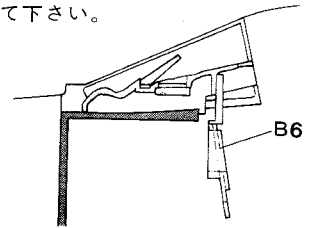


コックピット完成写真

2 コックピットのとりつけ

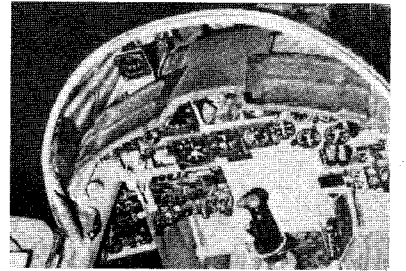


■計器板のとりつけは下の図を参考にして下さい。

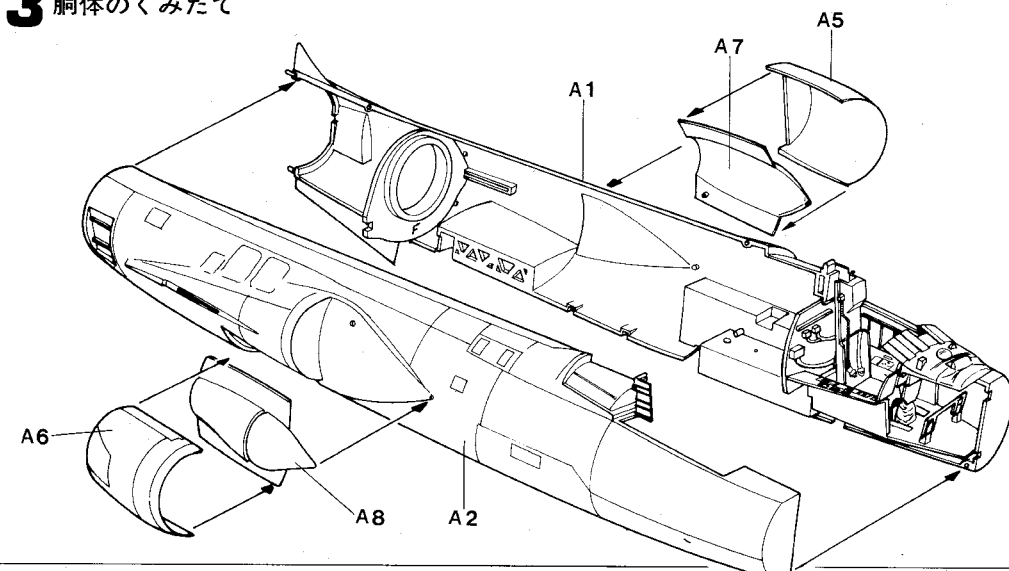


計器板側面図

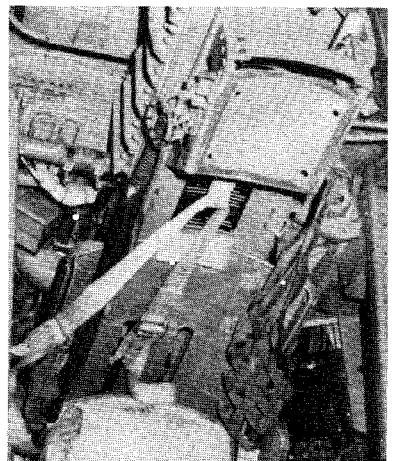
計器板実機写真



3 胴体のくみだて

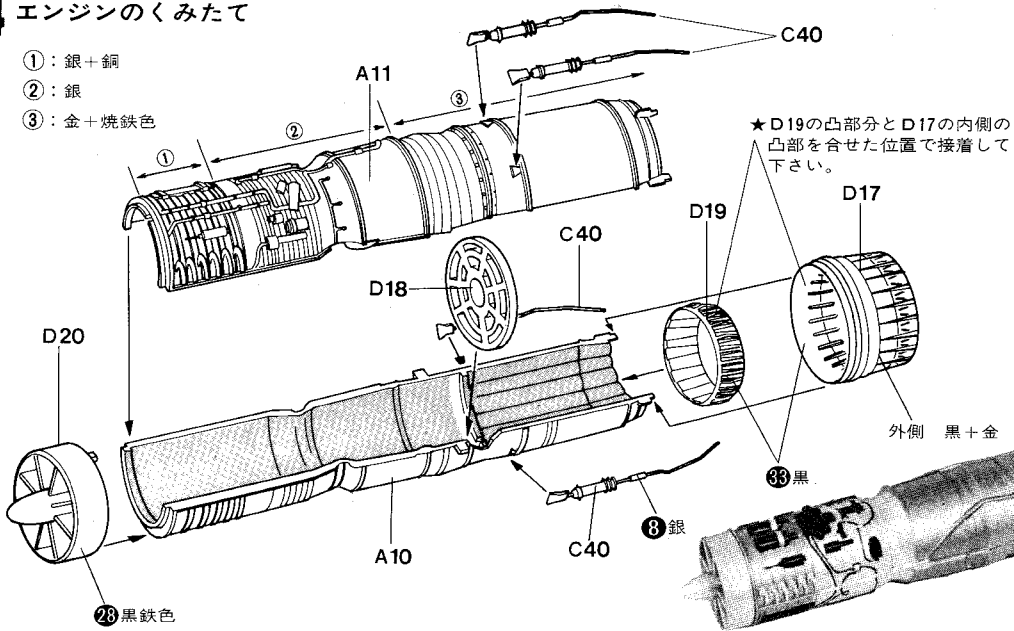


■胴体のくみだてには、胴体左右の両方に接着剤をたっぷりつけて、組み立てて下さい。乾くまでセロテープ等でとめておきます。

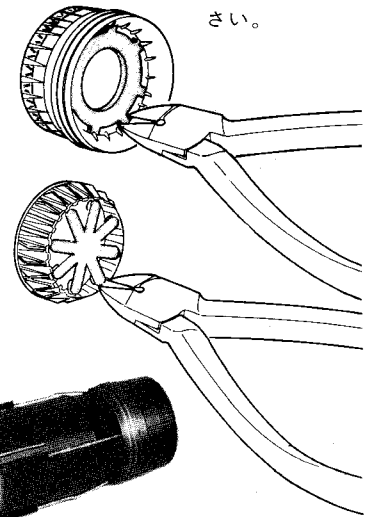


4 エンジンのくみたて

- ①: 銀+銅
- ②: 銀
- ③: 金+焼鉄色



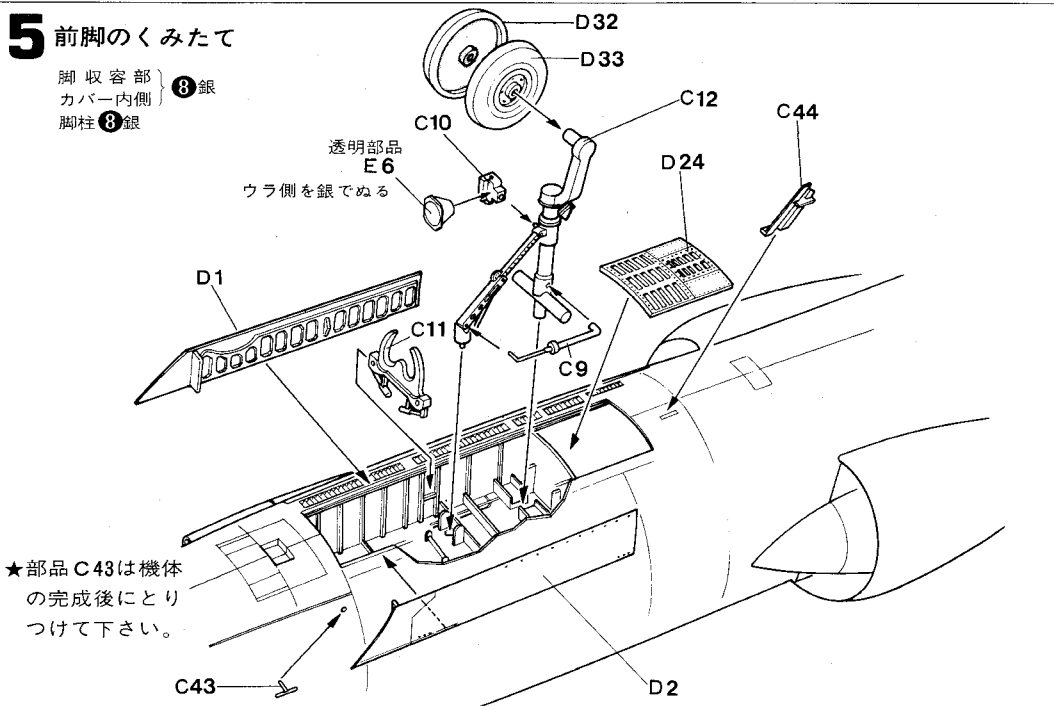
★D17とD19の内側ステアーをニッパー等で切りはなして下さい。



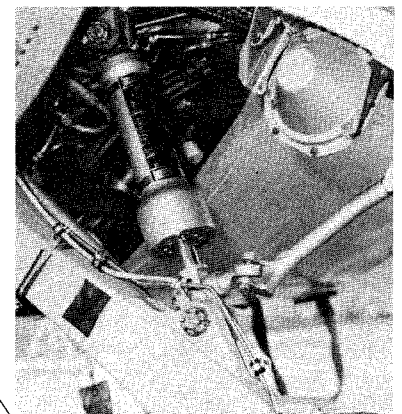
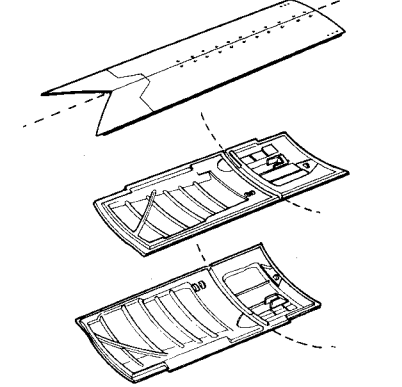
エンジン完成写真

5 前脚のくみたて

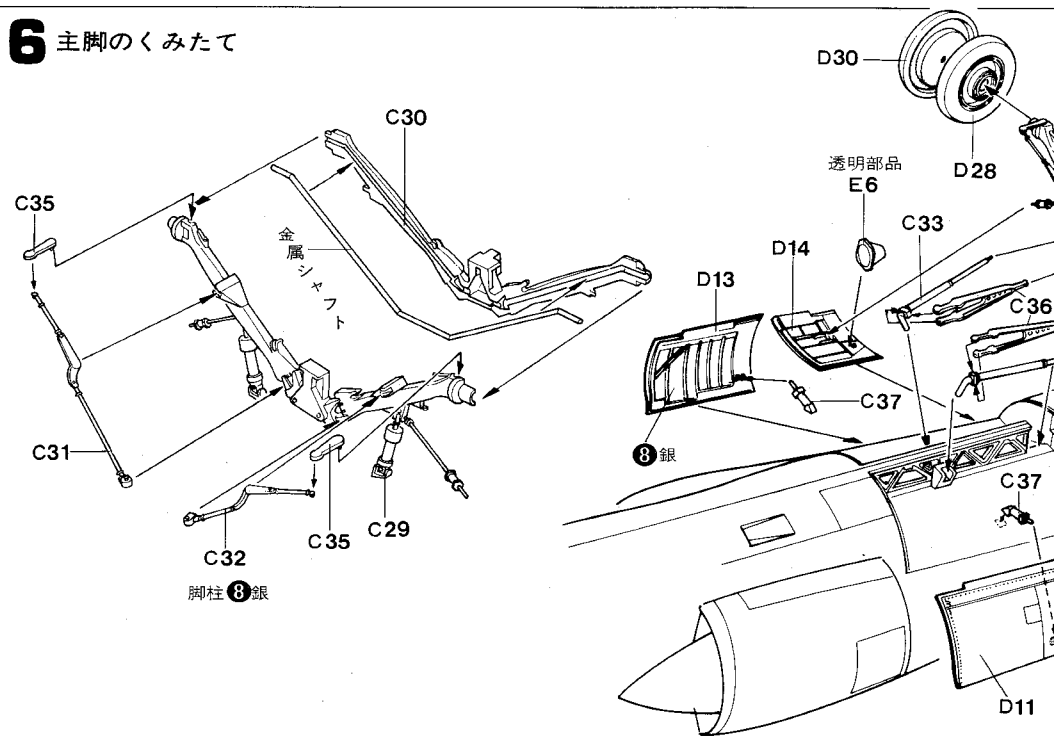
- 脚収容部 ⑧銀
- カバー内側 ⑧銀
- 脚柱 ⑧銀

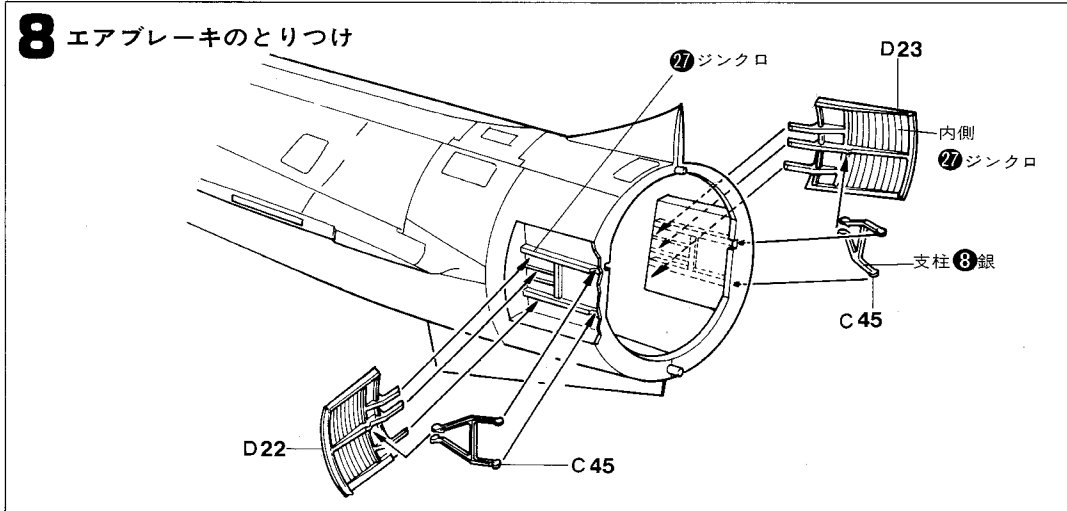
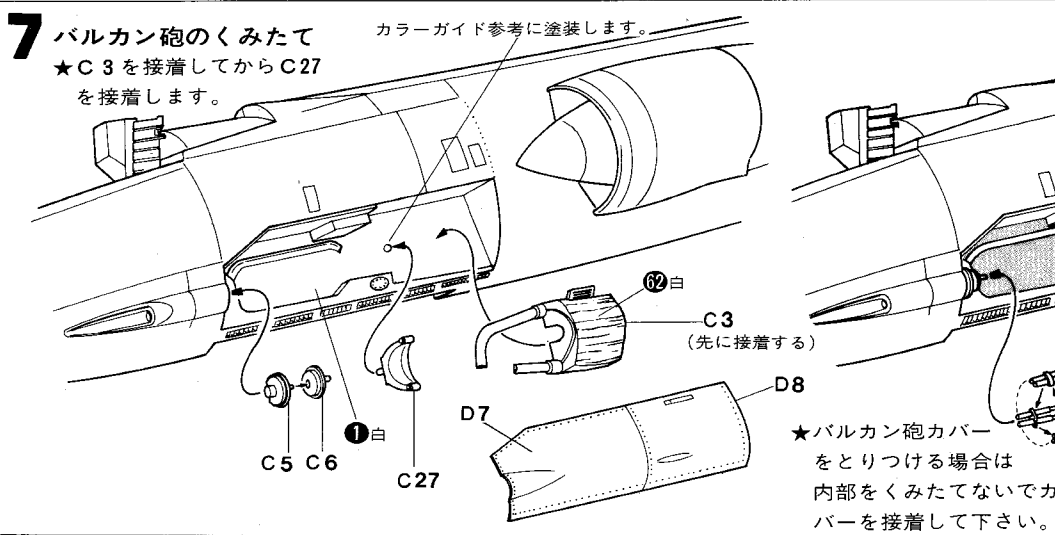


■脚カバーD7、8、11、12、13、14、は図の位置で切りはなして使用して下さい。

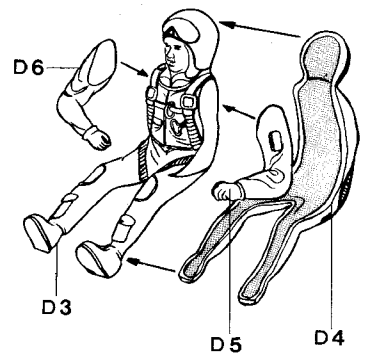


6 主脚のくみたて

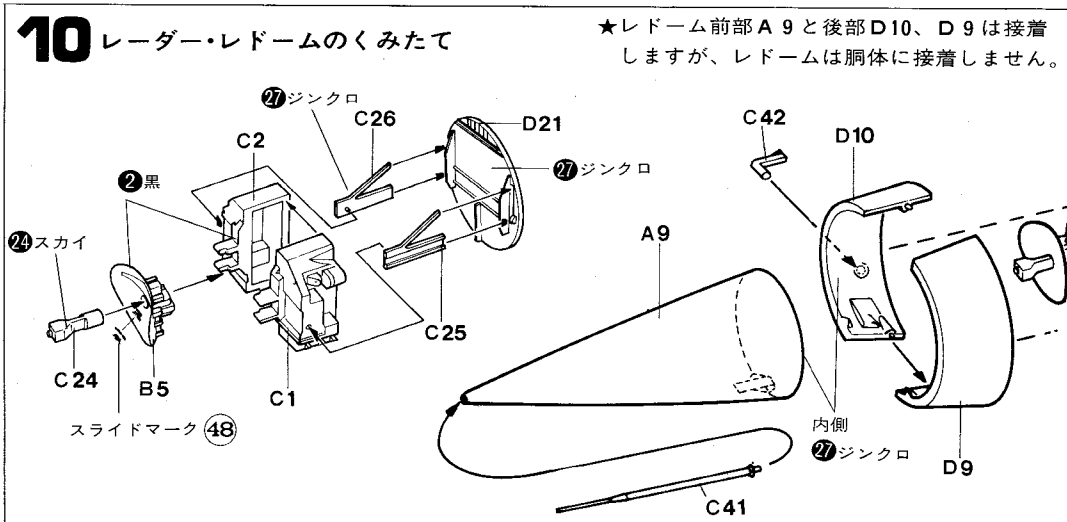
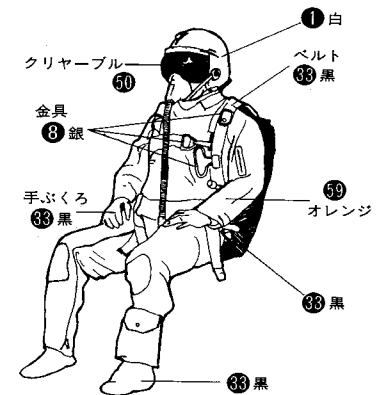
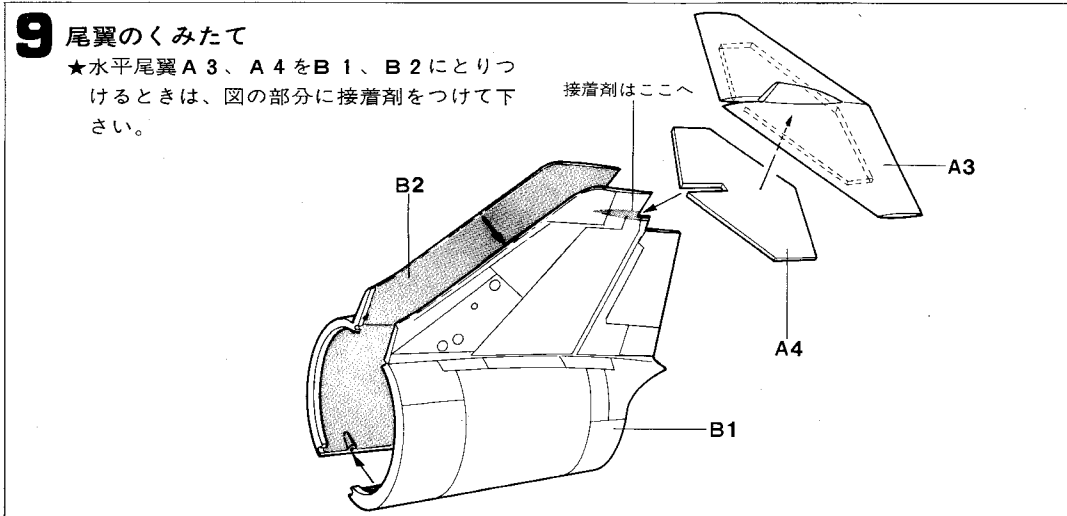




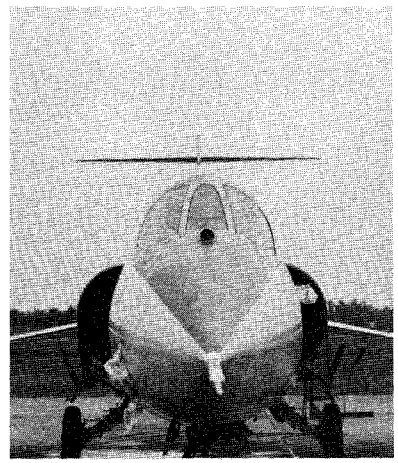
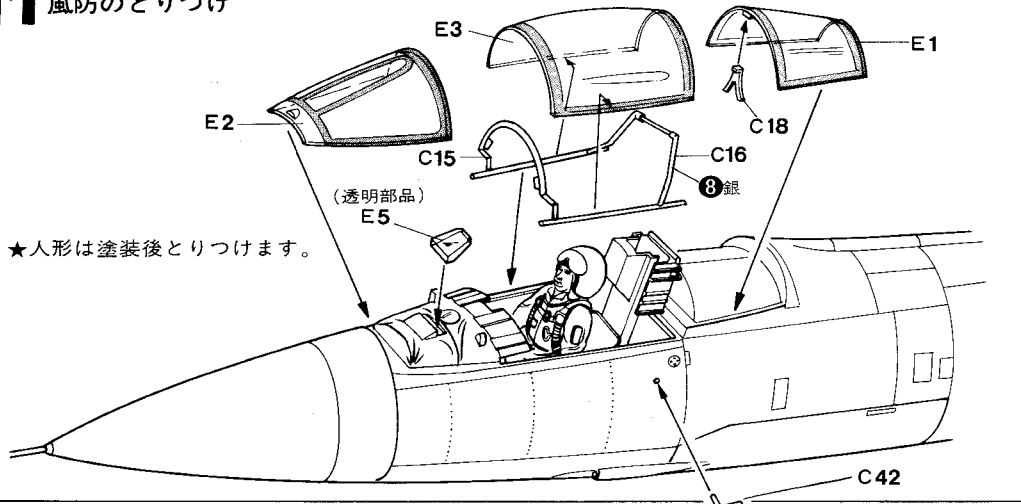
■人形のくみたて



■人形の塗装

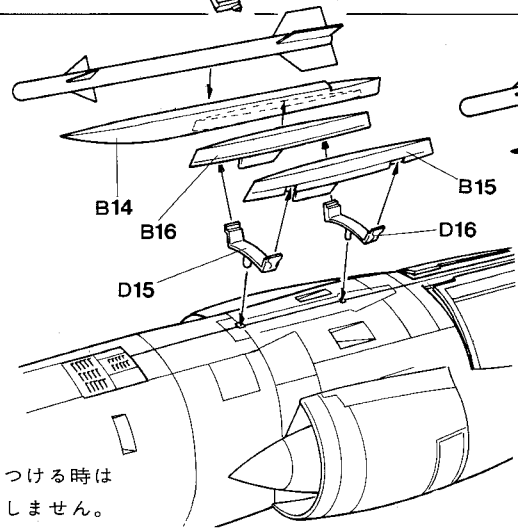
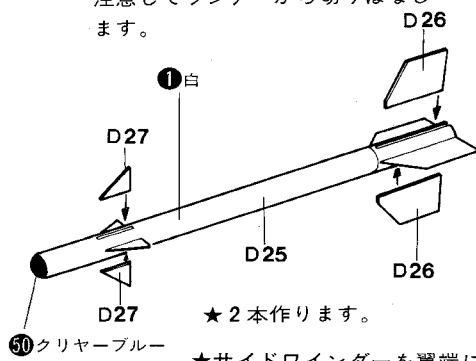


11 風防のとりつけ



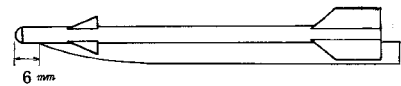
12 サイドウィンダーのくみため

★B13、14には左右がありますから注意してランナーから切りはなします。

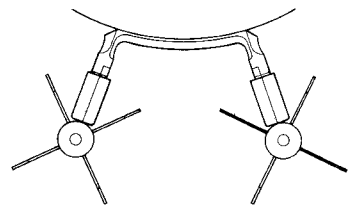


右側⑥クリアーブルー
左側⑦クリアーレッド

■サイドウィンダーのとりつけ位置は下の図を参考にして下さい。



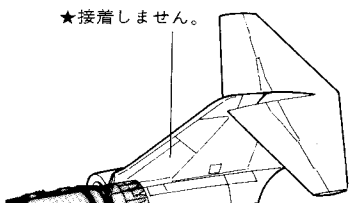
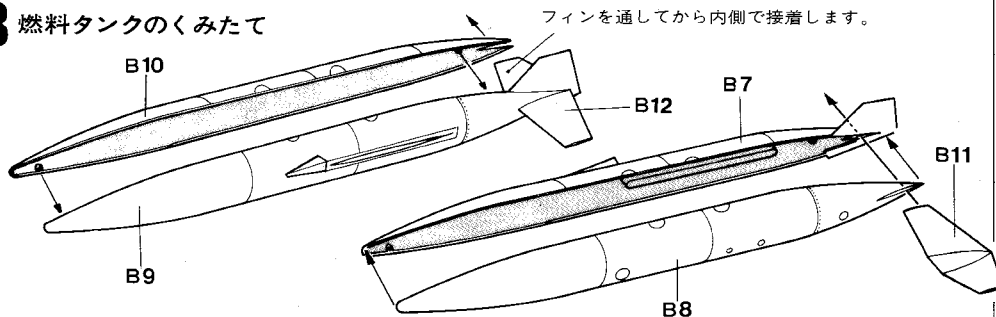
■サイドウィンダーを前から見ると、下図のように八の字形に広がります。



サイドウィンダー正面図

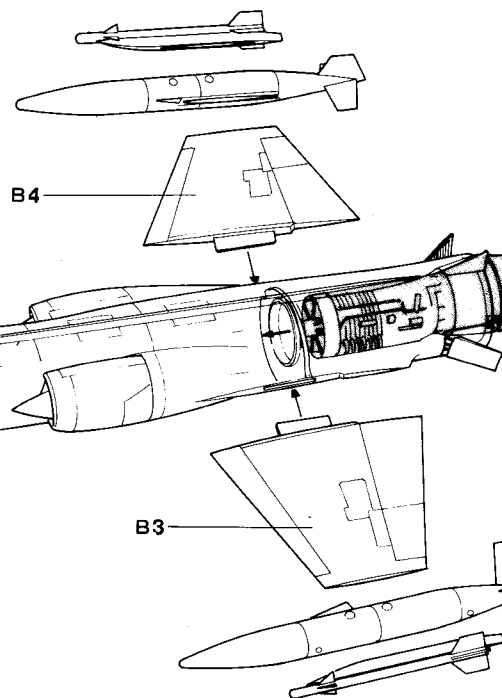
13 燃料タンクのくみため

フィンを通してから内側で接着します。

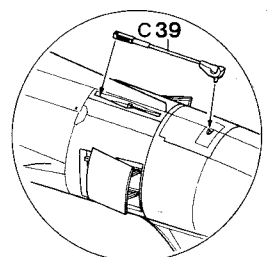


14 主翼、エンジンのとりつけ

★燃料タンクとサイドウィンダーは、どちらかを選んでとりつけて下さい。
★エンジンは胴体バルクヘッドの所までさしこみます。



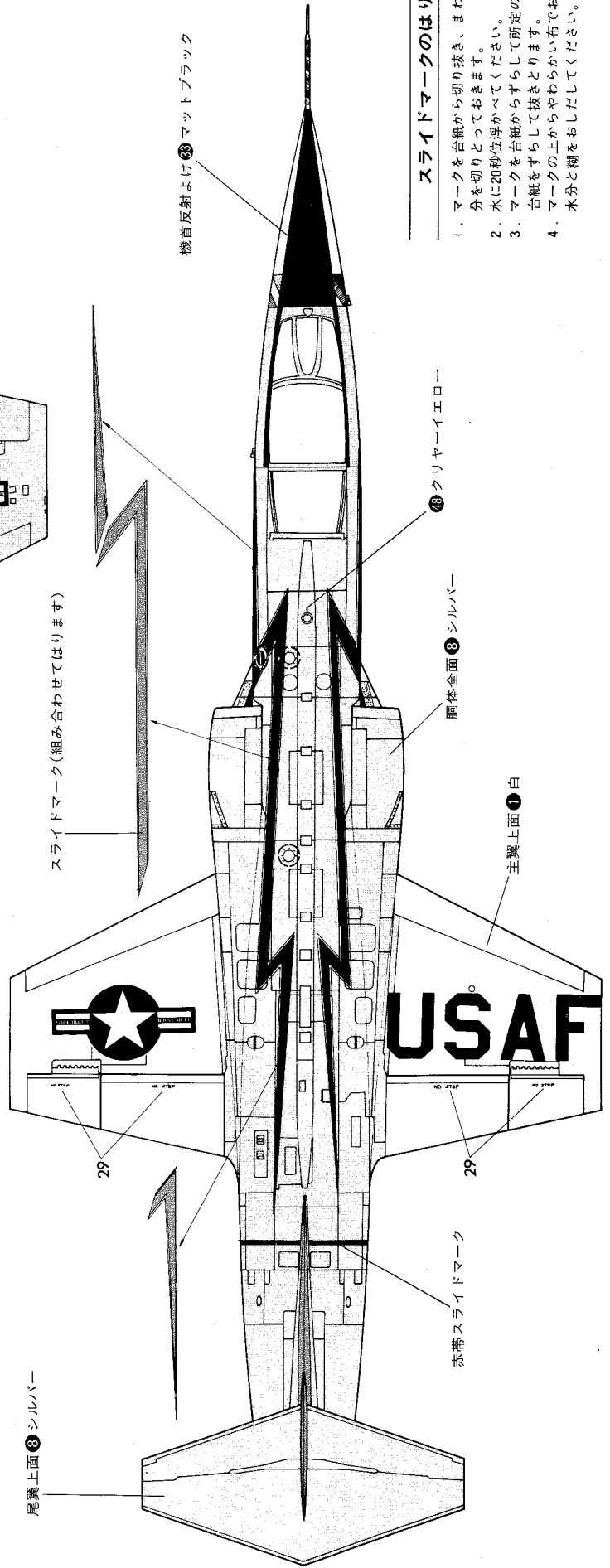
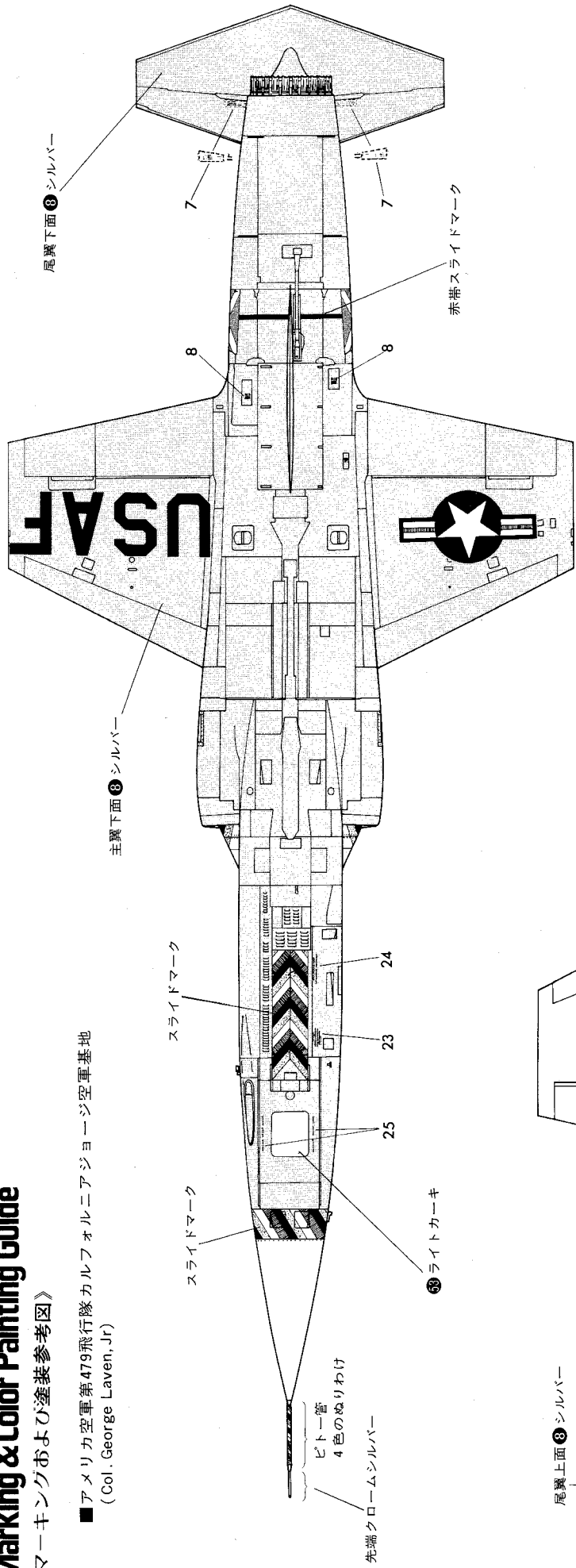
アレスターフックのとりつけ



Marking & Color Painting Guide

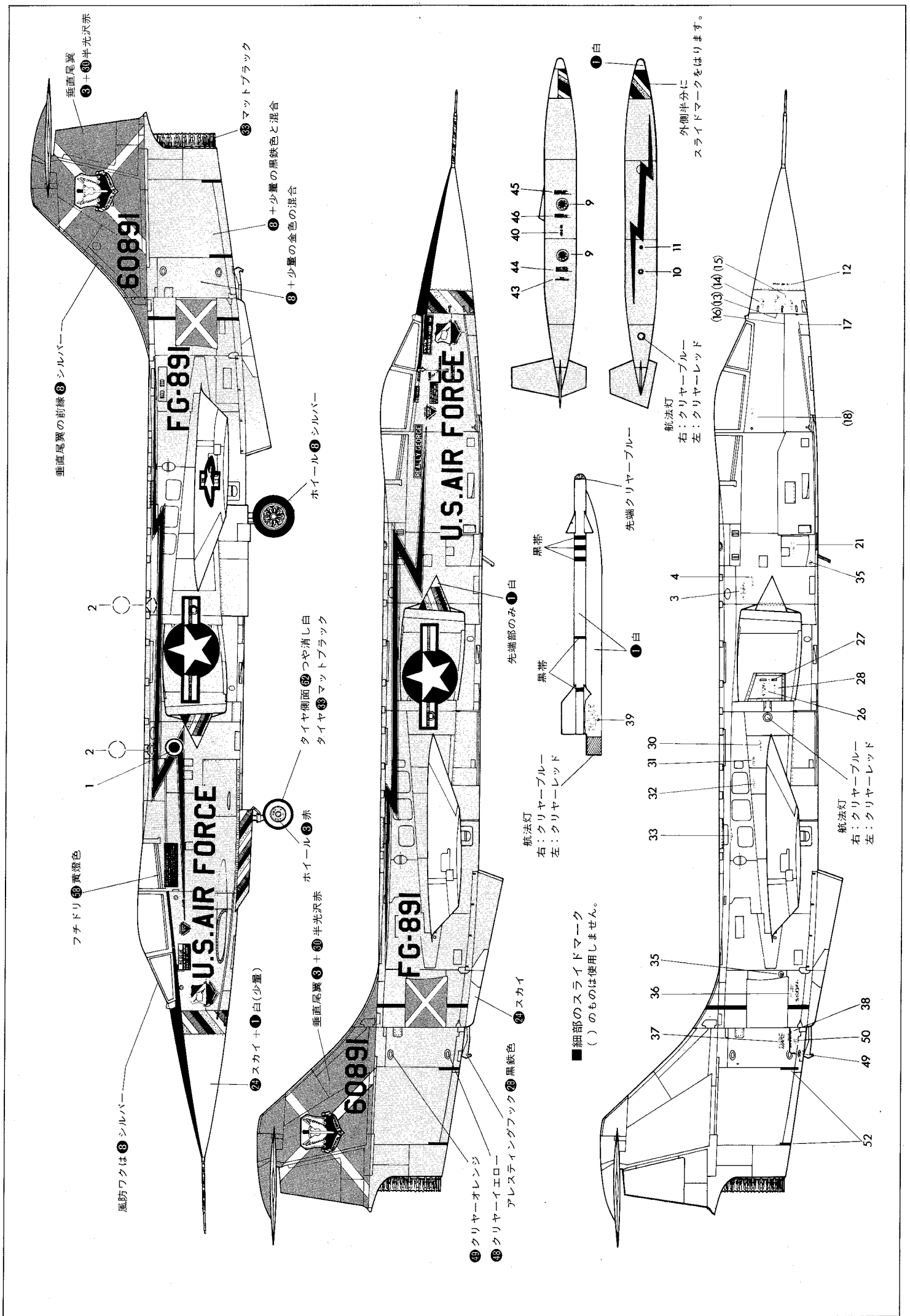
《マーキングおよび塗装参考図》

■ アメリカ空軍第479飛行隊カルフォルニアジョージ空軍基地
(Col. George Laven, Jr)



スライドマークのほり方

1. マークを台紙から切り抜き、まわりの透明な部分を切りとっておきます。
2. 水に20秒位浮かべてください。
3. マークを台紙からずらして所定の位置におき、台紙をずらして抜きとります。
4. マークの上からやわらかい布でおさえ、余分な水分と糊をおしだしてください。



垂直尾翼の前縁 ⑧ シルバー
 垂直尾翼 ⑧ + ⑩ 半光沢赤
 マットブラック ⑧
 ⑧ + 少量の黒鉄色と混合
 ⑧ + 少量の金色の混合

フチドリ ⑧ 黄褐色
 1
 2
 2
 ホイール ⑧ シルバー
 ホイール ⑧ 赤
 ⑧ スカイ + ① 白 (少量)
 垂直尾翼 ⑧ + ⑩ 半光沢赤
 タイヤ側面 ⑧ つや消し白
 タイヤ ⑧ マットブラック

風防ワクは ⑧ シルバー

⑧ クリヤーオレンジ
 ⑩ クリヤーイエロー
 アレステイニングブラック ⑧ 黒鉄色
 ② スカイ

43 44 40 46 45
 9 9
 ① 白

外側半分には
 スライドマークをはりません。

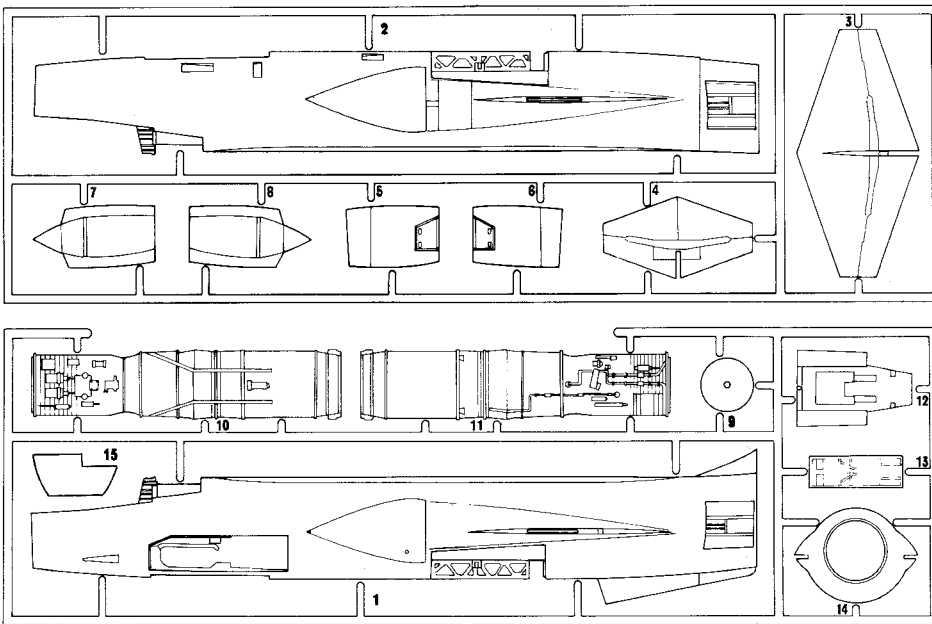
航法灯
 右：クリヤーブルー
 左：クリヤーレッド
 航法灯
 右：クリヤーブルー
 左：クリヤーレッド
 ① 白
 ① 白
 ③ 黒帯
 ③ 黒帯
 先端クリヤーブルー

■ 細部のスライドマーク
 () のものは使用しません。

16 (13) (14) (15)
 12
 17
 (18)
 21
 35
 27
 28
 26
 航法灯
 右：クリヤーブルー
 左：クリヤーレッド
 33
 31 30
 32
 36
 35
 37
 38
 49
 50
 52

《部品番号及び部品名》

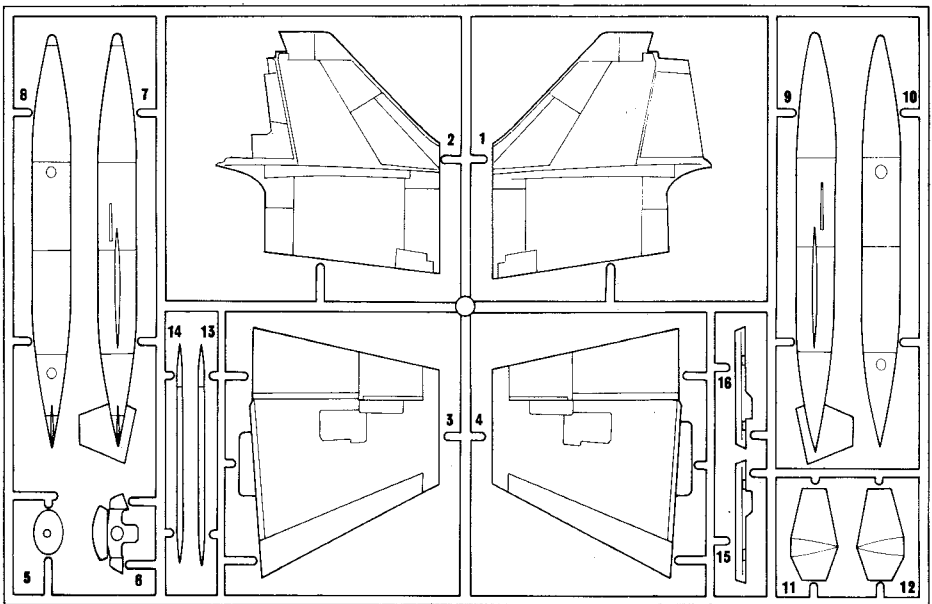
《A 部品》



A 部品

1. 胴体(左)
2. 胴体(右)
3. 水平尾翼上面
4. 水平尾翼下面
5. エアインテイク(左)
6. エアインテイク(右)
7. 境界層板(左)
8. 境界層板(右)
9. レドーム(前)
10. エンジン本体(下)
11. エンジン本体(上)
12. コックピットフロアー
13. 前脚格納庫
14. エンジンバルクヘッド

《B 部品》



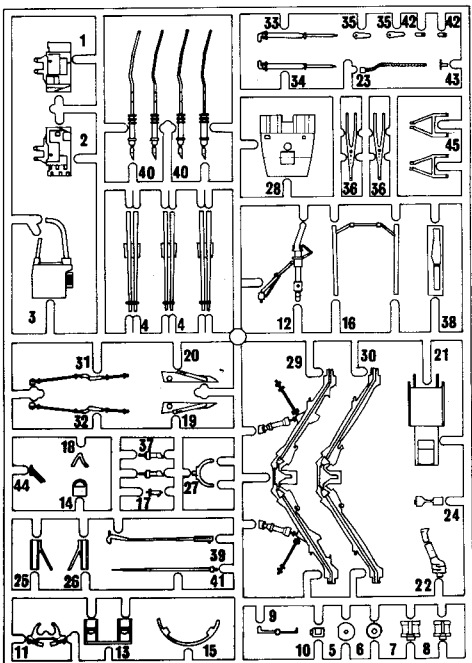
B 部品

1. 胴体(後)左
2. 胴体(後)右
3. 主翼(左)
4. 主翼(右)
5. 反射板
6. 計器板
7. 燃料タンク左内側
8. 燃料タンク左外側
9. 燃料タンク右内側
10. 燃料タンク右外側
11. 燃料タンクフィン
12. 燃料タンクフィン
13. ミサイルランチャー(左)
14. ミサイルランチャー(右)
15. 胴体下面パイロン(左)
16. 胴体下面パイロン(右)

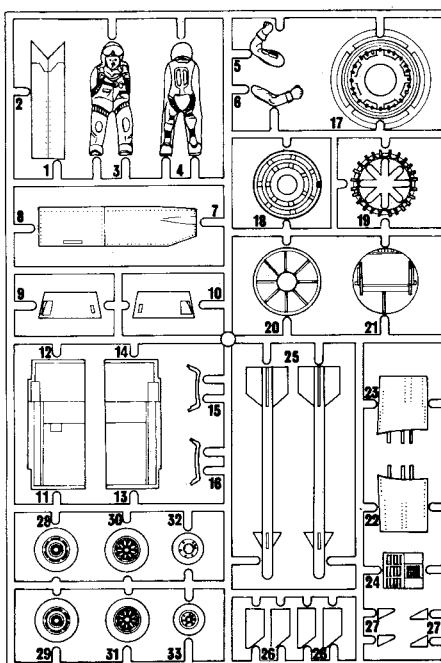
C 部品

1. レーダー本体(右)
2. レーダー本体(左)
3. バルカン砲本体
4. 砲身
5. 砲身受(前)
6. 砲身受(後)
7. 後部砲身受(A)
8. 後部砲身受(B)
9. 前脚アクチュエーター
10. 前脚ステアダンパー
11. 前脚ロック部品
12. 前脚柱
13. フットペダル
14. イジェクションリング
15. 与圧パイプ(前)
16. 与圧パイプ(後)
17. スロットルレバー
18. 電気機器室フレーム
19. ニーガード(左)
20. ニーガード(右)
21. 操縦レスト
22. 操縦桿
23. 酸素パイプ
24. レーダーアンテナ部品
25. レーダー支柱(左)
26. レーダー支柱(右)
27. バルカン砲支持台
28. 計器板カバー
29. 主脚柱(A)
30. 主脚柱(B)
31. 主脚柱ロッド(左)
32. 主脚柱ロッド(右)
33. 主脚支柱A(左)
34. 主脚支柱A(右)
35. ロッドアーム
36. 主脚支柱B
37. 主脚扉アクチュエーター
38. アレスターフック収納庫
39. アレスターフック
40. ノズルアクチュエーター
41. ビーチ管
42. ピッチコントロールローラー
43. トランスデューサーベーン
44. 素きょう排出部品
45. エアブレーキ支柱

《C 部品》



《D 部品》



D 部品

1. 前脚扉(右)
2. 前脚扉(左)
3. 人形(前)
4. 人形(後)
5. 人形左腕
6. 人形右腕
7. バルカン砲カバー(前)
8. バルカン砲カバー(後)
9. レドームB(左)
10. レドームB(右)
11. 主脚扉(右前)
12. 主脚扉(右後)
13. 主脚扉(左前)
14. 主脚扉(左後)
15. 胴体下面パイロン(前)
16. 胴体下面パイロン(前)
17. 排気管
18. タービンフレーム
19. ノズルフラップ
20. エアインテイクベーン
21. レーダーバルクヘッド
22. エアブレーキ(左)
23. エアブレーキ(右)
24. 前脚後部部品
25. サイドワインダー
26. ミサイルフィン(B)
27. ミサイルフィン(A)
28. 主車輪(内側)
29. 主車輪(内側)
30. 主車輪(外側)
31. 主車輪(外側)
32. 前車輪(左)
33. 前車輪(右)

E 部品

1. 前部キャノピー
2. 後部キャノピー
3. 中央キャノピー
4. OSHレンズ
5. OSH
6. ランディングライト

《金属部品》

1. 主脚用ピアノ線

金属部品

《E 部品》

